富山の風景

富山市の中心商店街（富山市）
旧北陸道沿いにあった商家が発祥

総曲輪通り

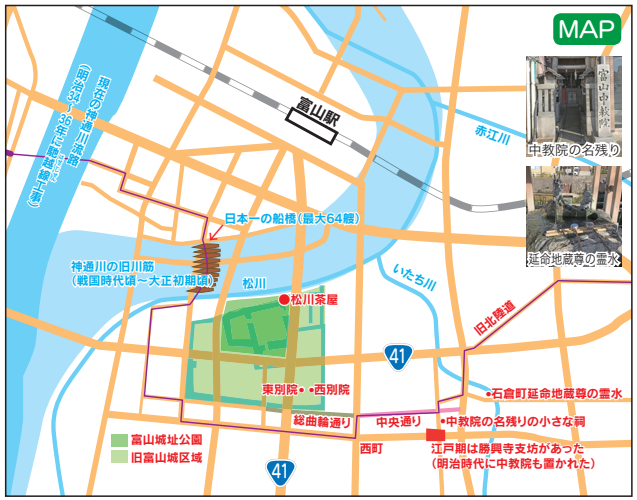
西町

中央通り

寛永16年（1639年）に加賀藩から富山藩が分藩。その後、万治2年（1659年）の領地替えで富山城が富山藩の正式な居城となり、城下町の整備が進められた。城を囲むように武家屋敷が並び、その周囲を巡るように北陸道が通り、沿線には町屋が並んだ。北陸道と飛騨往来の接点に近い西町辻には高札場が設置され、現在の中央通り周辺には東西の四十物町・袋町・室屋町など商家にちなんだ町名もあり、商家が並んでいたことがわかる。また、東端には勝興寺支坊（通坊）があり、門前町が賑わいをみせていた。

明治4年（1871年）、廃藩置県により富山城は廃城となり、徐々に解体され、本丸跡には県庁が置かれ、南には大手通りが新設され、繁華街が形成された。ただ、当時、最も賑やかだったのは、中教院前。通坊は、合寺令により一時廃寺となったが、その跡には中教院（神道思想を広める国家機関）が設置され、多くの人々が訪れた。一方、本願寺東・西両別院の誘致がきっかけとなり、広い敷地を確保するため、城址外堀を埋め立てた。別院には各地から参詣者が集まり、それらの客のためのそば屋や弁当屋が開店。そんな中、宿屋を営む高沢藤吉と古着商を営む瀬川良太郎が企画し、明治28年7月に夜店が始まった。これが総曲輪通り商店街の始まりという。その後、大正12年に、中町角に県内初の百貨店・岡部呉服店が、さらに、昭和7年には、今のキラリの場所に百貨店・宮市大丸（現在の大和）がオープンし、発展していった。

■参考／『特別展　富山の商店街　～近代化のあゆみ～』（富山市郷土博物館編集、富山市教育委員会発行）



富山を代表する
銘菓 月世界

月世界本舗

本店　富山市上本町8-6☎421-2398
売店　きときと市場 とやマルシェ
売店　大和デパート富山店・高岡店
売店　富山空港ターミナルビル売店

地方発送承ります。

はるか北海道の昆布は、
富山の海の幸に惚れました。
かつて北前船によって
北海道から運ばれた昆布が、
富山の豊かな海の幸と出会い、
富山の特産「昆布巻かまぼこ」を
誕生させました。
食卓からご贈答まで、
全国の人々に親しまれる美味に。
そんな富山の
自然と文化が育んだおいしさを、
梅かまは自信をもってお届けします。

梅かま

本社　富山市水橋肘崎482（水橋リバーサイドパーク）☎(076)479-0303
URL http://www.umekama.co.jp/　E-mail: umekama@umekama.co.jp
売店　梅かまミュージアムU-mei館、きときと市場とやマルシェ店（富山駅）、大和富山店
大和梅香庵、クルン高岡店（高岡駅2F）